

考古・歴史・民俗の頭文字を取って考歴民（これみ）と名付けました。

地名・私部（きさべ）

交野には、私部・私市といった珍しい地名が付けられている。

この私部という地名がどうして付けられたのか。歴史的にさかのぼってみると次のようである。

日本書紀 卷第二十 淳中倉太珠敷天皇（敏達天皇）の条

五年春三月 己卯朔戊子 有司請立皇后。

詔立豊御食炊屋姫尊為皇后。

=中略= 六年春二月 甲辰朔 詔置日記部 私部 =後略= とある。

この「私部（きさべ）」が現在の地名「私部」なのである。

「きさいちべ」、これは皇后（后、きさき）のため、いろいろな仕事をしたり、世話をしたりする役所のことであり、かつ、その世話をする人々を指している言葉でもある。

正式には「私府」と言い、その任に当たる人を

「私官」と言った。この言葉はもともと中国で使われていたもので、後漢書にはこれに「后」の字を当てて「きさき」と読ませている。

この制度というか、あるいは言葉を日本に持ち込み「私」の字を当てて「きさき」「きさい」と読ませていたのである。

後のために付けられた土地を耕作する農民や身の回りの世話をする人々などがいて

彼らを総称して「私部」と言った。

いわゆる部民である。

とよみけかしきやひめ すいこてんのう きんめいてんのう
豊御食炊屋姫、後の推古天皇。欽明天皇の第三皇

女で母は堅塩媛きたしひめと言そがいなめい蘇我稲目びたつが敏達天皇の皇后となったとき、時あたかも朝廷では大和の大豪族である蘇我氏そがと物部氏ものべが権力を手中に収めようと勢力争いの最中であつた。

その折、蘇我馬子（蘇我稲目の子）は、姪に当たる豊御食炊屋姫を皇后としたことによって、その勢力は確固たるものとなった。

一方、先を越された物部守屋は、これに対抗するため、物部氏にとって重要な土地である交野の地を皇后に献上することによって、天皇への接近を図り、勢力を盛り返そうとしたのであつた。

物部氏は河内の八尾辺りと交野が勢力の中心地でもあつたのである。

そのもう一つの勢力の中心を皇后に渡したのであるから、相当の犠牲であつたであろうと思われる。このときから交野は皇后領となり、交野の村々は皇后の部民に組み入れられたのである。

交野皇后領の中心になつたのが私市であり私部であつたと思われる。

後、天野川筋の豊かな土地に条里制が施行され、私市の天田宮付近から一条で始まり私部は三条、四条、郡津が五条と、枚方の方へ、天野川下流へとつくられていった。

交野地方では私部付近が一番豊かな土地が多く、収穫も多かつたであろう。

そして、交野の中心地として集落の規模をもつようになった。

それとともに「きさいちべ」がだんだんなまって「きさべ」となつたものと考えられる。

私部の集落は天野川の条里制のあつた低地を避け、東方の少し高い台地状の所に立地している。

また、台地の谷を避けている。

ただ、東高野街道から外れているので交通網からは少し不自由であつたと思われる。

